

平成 29 年（2017 年）の鳴子の火山活動

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴気活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報の状況、2017 年の発表履歴

2017 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○ 2017年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～5）

6 月及び 11 月に実施した現地調査では、2012 年 3 月と比較して潟沼周辺の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

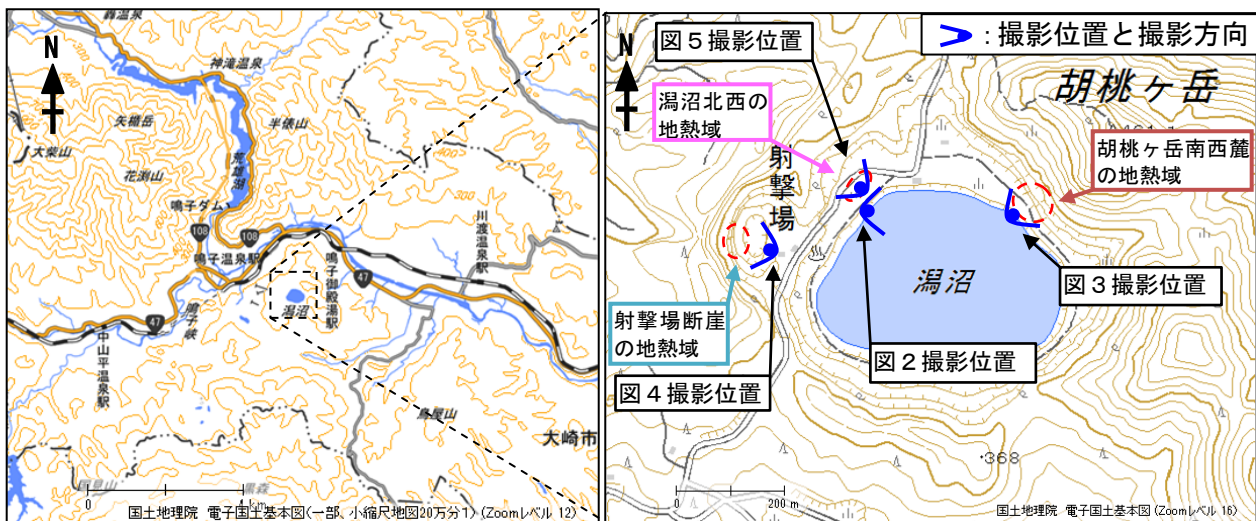


図 1 鳴子 潟沼周辺の地熱域の撮影位置と撮影方向

この資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

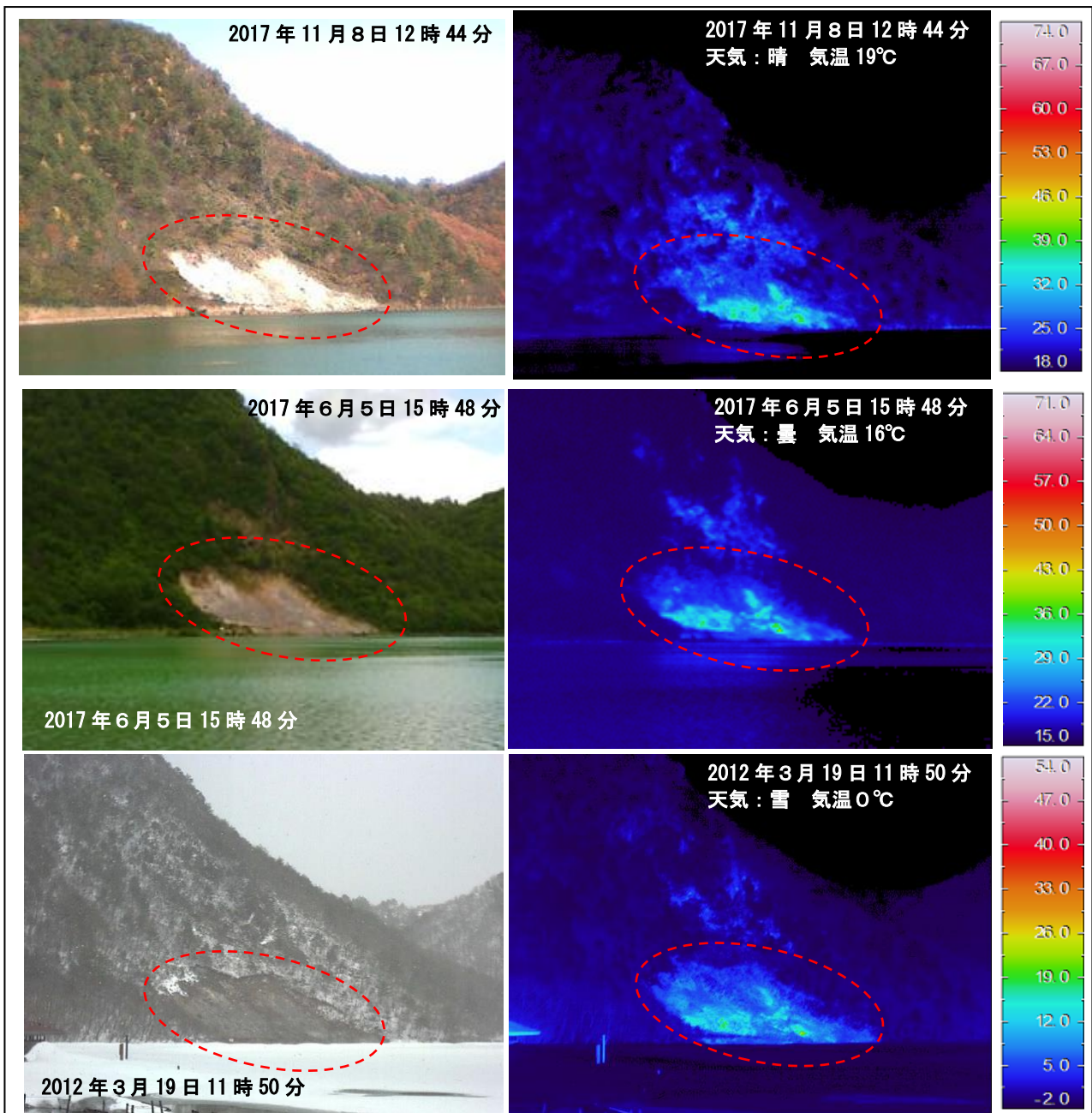


図 2 鳴子 西から撮影した胡桃ヶ岳南西麓の地熱域の状況と地表面温度分布¹⁾

・日射の影響の違いはあるものの、地熱域（赤破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

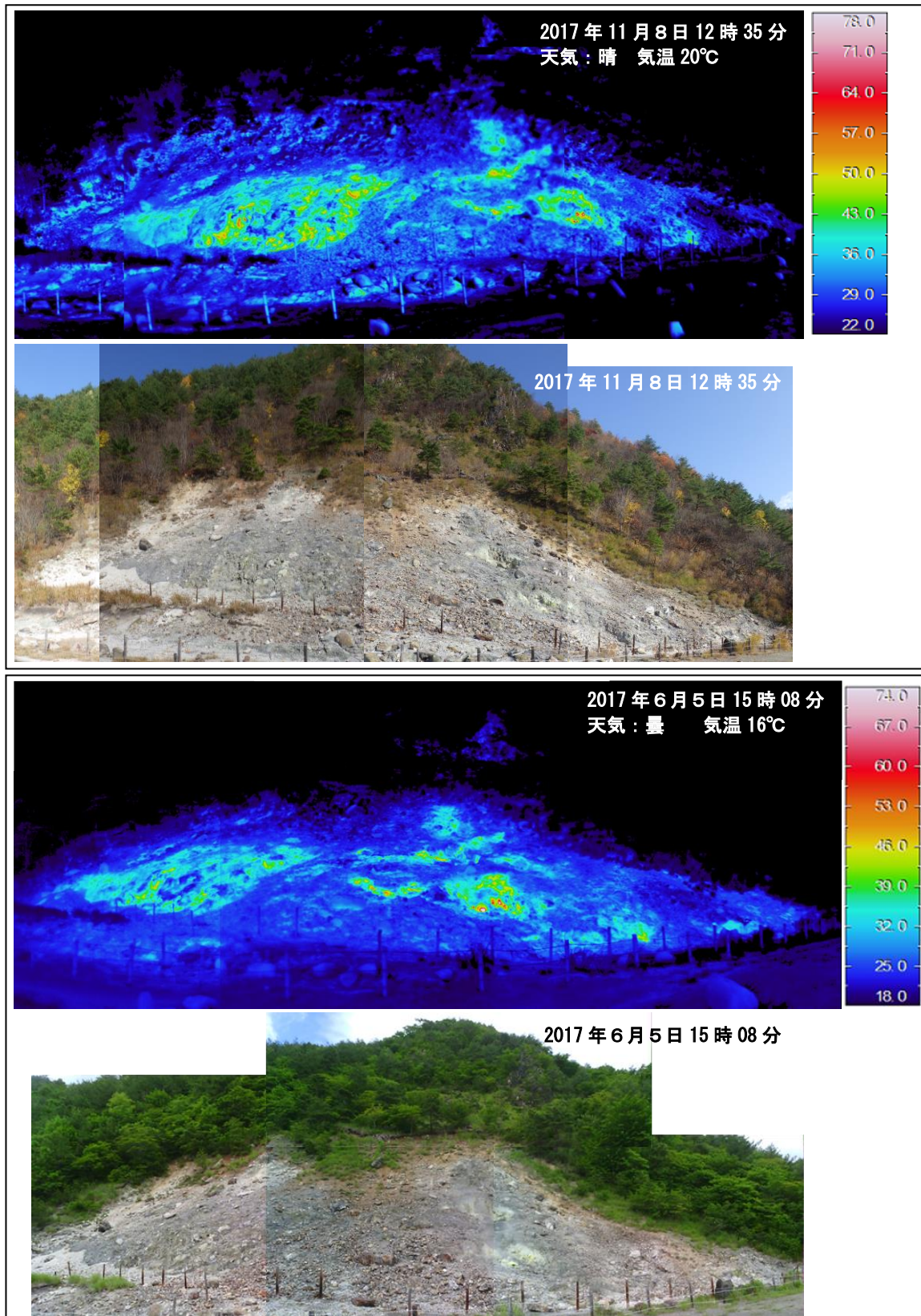


図3 鳴子 南西から撮影した胡桃ヶ岳南西麓の地熱域の状況と地表面温度分布

・噴気及び地熱域が認められました。

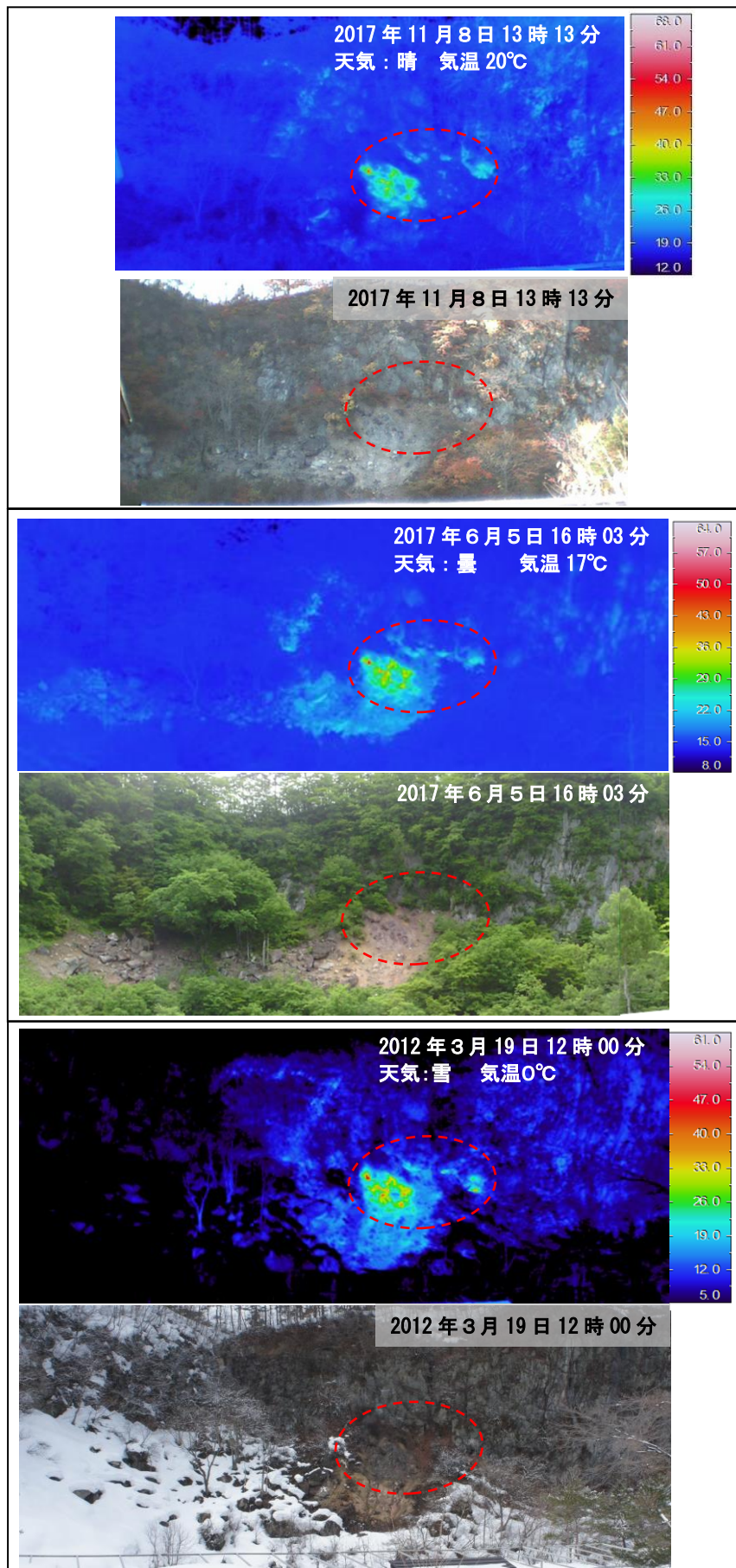


図 4 鳴子 東から撮影した射撃場断崖の地熱域の状況と地表面温度分布

・日射の影響の違いはあるものの、噴気及び地熱域（赤破線）の状況に特段の変化は認められませんでした。

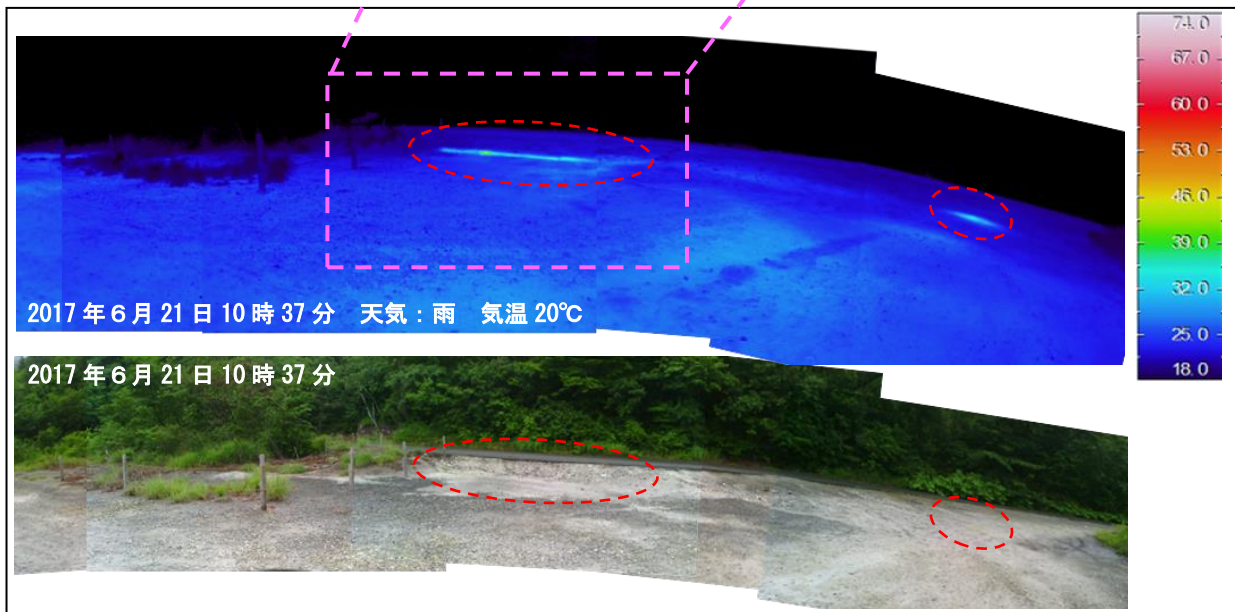


図5 鳴子 南東から撮影した潟沼北西の地熱域の状況と地表面温度分布
・赤破線で地熱域が認められました。